

『小さい』 作：ポチ子

『小さい』 作：ポチ子

私の人生に、

私が及ぼした影響なんてほとんどない。

毎日ご飯が食べられたのも、

学校に通えたのも、

こうやってのんびりテレビが見られるのも、

別に私が努力したからではない。

何となく最初からあって、

それに甘えながら生きて、

気づいたらこうなっていた。

私が苦勞もせず手にしているものを、

どんなに頑張っても手にできない人がいる。

私が悪いわけじゃない。

でも、その人が悪いわけでもない。

それを努力不足とか、

その人の責任だとか、

どうして抜け出さないのとか、

そんな言葉で片付けるのは、余りに酷な気がする。

生きてみると、

全ての結果には、過程があるような気がして、

自分の行動とか、生き方とか、

それが人生に及ぼした影響を高く見積もる。

運だとか、たまたまだとか、

そういわれると何となく腹が立つから、

自分がいかにそれを勝ち取ったのか、

声を大にして言いたくなる。

でも、実際は思っている以上に、

自分の影響は小さいものだったりする。

それを感じて生きる必要もないけど、

気づかずに生きるのとは違う気がする。